

葛城牛滝鳥獸保護区

**鳥獸保護区更新調査業務
報告書**

平成30年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

目次

1. 調査の目的.....	1
2. 調査区域及び調査対象.....	1
3. 調査内容.....	2
4. 調査地の概要及び環境.....	2
5. 調査方法.....	3
6. 調査地区位置図.....	4
7. 調査結果.....	5
7-1 現地調査結果.....	5
7-2 文献調査結果.....	13
8. まとめ.....	18
9. 参考文献.....	21

1. 調査の目的

この調査は、大阪府が指定した既存鳥獣保護区のうち、葛城牛滝鳥獣保護区の存続期間の更新等についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査区域及び調査対象

葛城牛滝鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等を調査対象とする。葛城牛滝鳥獣保護区の範囲は図 2-1 に示す。

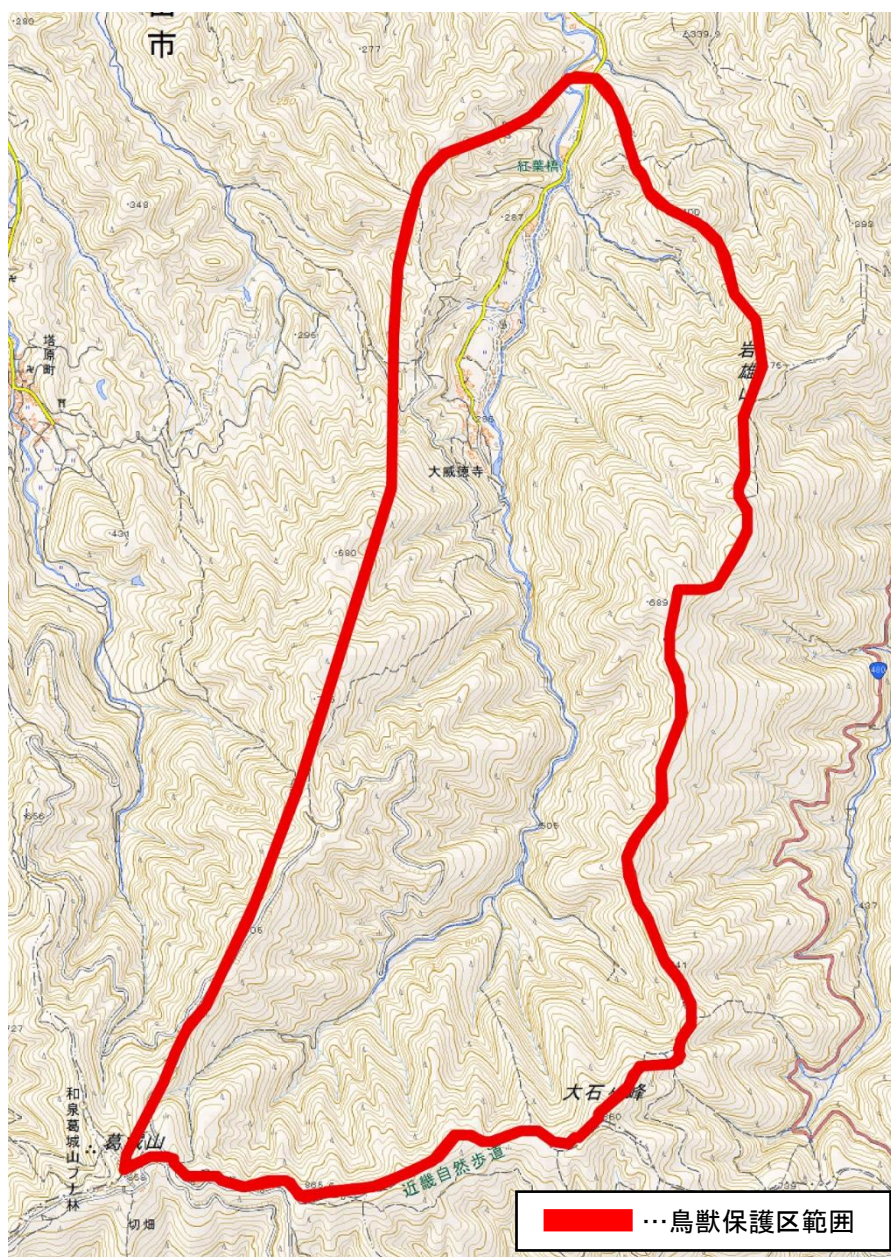


図 2-1 葛城牛滝鳥獣保護区の範囲

3. 調査内容

現地調査及び既存データの整理により、下記の事項を把握する。

- ・ 鳥獣生息状況（リスト作成）、生息密度、特色
- ・ 利用状況（野鳥観察者数など）

4. 調査地の概要及び環境

葛城牛滝鳥獣保護区は、岸和田市南部に位置し、南側は和歌山県境と接し、西側は和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区とも接し、東側は岸和田市と和泉市の境界線に接する位置にある。また、大阪府と和歌山県を隔てる和泉山脈の中央部に位置し、南側は和泉山脈主稜線を挟んで和歌山県と接する山岳地帯、北に向かって和泉山脈の北斜面が広がり、裾野には集落等もあるが、保護区内のほとんどが山地地形である。

保護区の標高は200m～865.7m、面積は約512haで西側に和泉葛城山ブナ林鳥獣保護区(面積約57ha)が隣接している。やや離れて西側には、犬鳴山鳥獣保護区(面積約488ha)、北西側には大阪府立少年自然の家特定猟具使用禁止区域(面積約26ha)が設置されている。

本地域の植生は、大部分が二次林や針葉樹の植林地であるが、一部の尾根筋にはアカマツ林が残存するほか、谷筋には落葉広葉樹林が残る。また、葛城山山頂部のブナ林や、牛滝大威徳寺周辺の照葉樹林といった、注目すべき植生域も存在する。そこに生息する動植物種をみると、植物種では、ブナ等の冷温帯性の植物や、シラカシ、アラカシ等の暖帯性の植物、多くのラン科植物等、注目すべき植物種がみられ、動物種ではホンダタヌキ、ニホンイノシシ等の広い行動圏を持つ中・大型哺乳類や、ブナ林を特徴づける種（ゴジュウカラ、ブナアオシャチホコ等）、照葉樹林を特徴づける種（クロシオキシタバ等）、良好な河川環境に生息する種（ゲンジボタル、カジカガエル等）などが生息しており、植物種動物種ともに多種多様な生態系を包含している。

和泉葛城山(858m)は、和歌山県との府県境にあり、大阪側の山頂周辺に国指定天然記念物のブナ林が広がることで知られている。湿った環境にすむ陸生貝のオオギセル(大阪府 RL・絶滅危惧Ⅰ類)、両生類のニホンヒキガエル(大阪府 RL・絶滅危惧Ⅱ類)、昆虫のカヤコオロギ(大阪府 RL・絶滅危惧Ⅰ類)やエゾゼミやコブヤハズカミキリ(ともに大阪府 RL・準絶滅危惧種)などの希少種が確認されている。

和泉葛城山の北東側にある谷である牛滝は、和泉葛城山山中に源を発する牛滝川の上流部に位置している。何段にもなった滝や、秋に美しい紅葉を見せる大威徳寺境内のイロハモミジ林、西側斜面に広がるシラカシ林などに優れた景観を有することから、大阪府により名勝に指定されている。和泉葛城山頂へ登る山中では、ムカシトンボ(大阪府 RL・純絶滅危惧種)コガタブチサンショウウオ(大阪府 RL・絶滅危惧Ⅱ類)など、山地性の希少種がみられる。

以上のように、本地域は、広い範囲のまとまりある樹林域の中に暖帯林から冷温帯林までを含み、そこに生息する動植物も、生育環境の多様性を反映して多種多様なものが生育し、自然環境が豊かな地域である。本地域は、動植物種の生育環境として最も重要な地域として、保護・保全が望まれる地域であるといえる。

参考：「平成28年度岸和田市環境白書」(岸和田市, 2018年3月12日掲載)

参考：「大阪の生物多様性ホットスポット-多様な生き物たちに会える場所-」(大阪府環境農林水産部みどり推進室みどり企画課, 2016年1月)

5. 調査方法

調査は、表 5-1 に示す文献による文献調査及び現地調査により実施した。

現地調査は、図 6-1 に示す調査ルートを約 2km/h の速度で歩くラインセンサス法と一定時間調査地点にとどまり調査をする定点観察法を用いて（本調査の定点観察は 10 分間とした）調査を実施した。ラインセンサスでは片側 25m 両側合わせて 50m の範囲の鳥獣を記録した。調査時期は、秋季 1 回、冬季 1 回とした。さらに、保護区内の農耕地、市街地、ため池など局所的な環境の生息種や、猛禽類など広域な生活基盤を持つ種の生息状況を補うため、保護区内において任意調査を行った。

また、調査毎に重要種を選出した。重要種の選定基準は表 5-2 による。

表 5-1 参考文献

文献 No.	文献名	発行年・発行者
文献 1	大阪府鳥類目録 2016 地域別鳥類リスト	2017 年・日本野鳥の会大阪支部

表 5-2 選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）
環境省レッドリスト 2017（環境省 R L）
大阪府レッドリスト 2014（大阪府 R L）

6. 調査地区位置図

現地調査ルートを図 6-1 に示す。

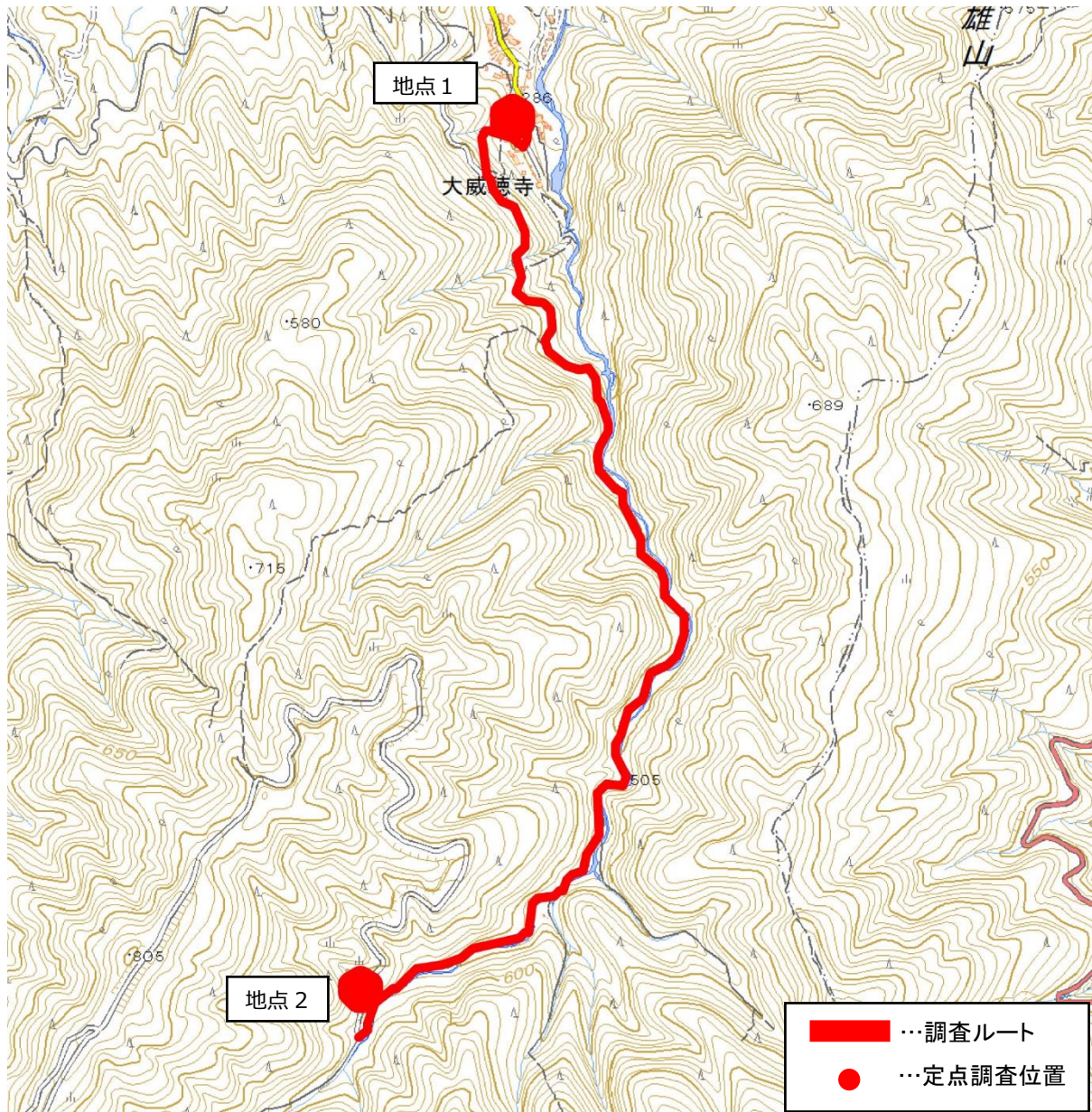


図 6-1 調査地点位置図

7. 調査結果

7-1 現地調査結果

1) 鳥類

① 調査時期・天候・時間

現地調査時期、天候、調査時間を表 7-1 に示す。

表 7-1 調査時期・天候・調査時間

調査時期	調査日時	天候	調査時間	
秋季	平成 30 年 10 月 2 日	晴れ	ルート①	8:25～9:56
			任意調査	10:14～12:43
			定点①	8:14～8:24
			定点②	9:57～10:07
冬季	平成 31 年 1 月 8 日	曇り	ルート①	8:44～10:30
			任意調査	10:45～14:03
			定点①	8:33～8:43
			定点②	10:34～10:44

② 鳥類確認種

現地調査の結果、4 目 17 科 35 種の野鳥を確認した。確認種を表 7-2、調査回・ルート毎の個体数を表 7-3 に示す。

各調査回における確認種数は、秋季が 21 種、冬季が 24 種であり、調査回ごとの個体数合計は、秋季が 192 羽、冬季が 188 羽であった。

分類は「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（2012 年，日本鳥学会）に従った。なお、今回の調査で確認されたソウシチョウは外来種であり、第 7 版未掲載種であるが、参考として鳥類確認種表に掲載した。

表 7-2 現地調査 鳥類確認種

No.	目	科	学名	種名	秋季	冬季	区分	
1	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○		留鳥	
2	タカ	タカ	<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ		○	留鳥	
3			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	○		夏鳥	
4	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	留鳥	
5			<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ	○		留鳥	
6			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○		留鳥	
7	スズメ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○		留鳥	
8		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	○	留鳥	
9			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○		留鳥	
10			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	留鳥	
11		クイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	クイタダキ		○	冬鳥	
12		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	留鳥	
13			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○	○	留鳥	
14			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	留鳥	
15		チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○		外来種	
16		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	留鳥	
17		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	留鳥	
18		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	留鳥	
19		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	留鳥	
20		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ		○	留鳥	
21		ヒタキ	<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ		○	冬鳥	
22			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ		○	冬鳥	
23			<i>Phoenicurus aureus</i>	ジョウビタキ		○	冬鳥	
24			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ	○		留鳥	
25			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		旅鳥(一部夏鳥)	
26			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○		夏鳥	
27		セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ		○	留鳥	
28			<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ		○	留鳥	
29			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	○		留鳥	
30		アトリ	<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ		○	冬鳥	
31			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ		○	冬鳥	
32		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ		○	留鳥	
33			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		○	冬鳥	
34			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ		○	冬鳥	
35			<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ		○	冬鳥	
合計		4目	17科	35種		21種	24種	-

表 7-3 調査回・ルート毎の確認個体数

No.	目名	科名	学名	種名	秋				冬			
					ルート①	任意調査	定点①	定点②	ルート①	任意調査	定点①	定点②
1	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト			1	1				
2	タカ	タカ	<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ							1	
3			<i>Butastur indicus</i>	サシバ				19				
4	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	3		1		6			
5			<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ		1						
6			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	1							
7	スズメ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ			1					
8		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	10		1	6	3		1	
9			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス			1					
10			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	4			1	3		1	2
11		キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	キクイタダキ						1		
12		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	2				3			1
13			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ		7			2			1
14			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	6				8		1	1
15		チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ		5						
16		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	18		4	39	16		5	6
17		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	5				6			
18		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	36				33			
19		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	7		7		37		1	2
20		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ					2			
21		ヒタキ	<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ					2			
22			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ					4			
23			<i>Phoenicurus aureoreus</i>	ジョウビタキ					1			
24			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ			1					
25			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ		1						
26			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ		2						
27		セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ							1	
28			<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ							1	
29			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ			1					
30		アトリ	<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ						15		
31			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ						1		
32		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ						1		
33			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ						5		
34			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ					5		5	3
35			<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ					1			
ルート個体数合計					92羽	16羽	18羽	66羽	132羽	23羽	17羽	16羽
調査回個体数合計					192羽				188羽			

③ 重要種

現地調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は3目4科5種であった。確認された重要種を表7-4、図7-1に示す。

今回の調査で、環境省レッドリスト記載種が2種、大阪府レッドリスト記載種が5種確認された。レッドリスト記載種5種の内、すべての種が山野の鳥である。

表7-4 現地調査 確認された重要種

No.	目	科	学名	種名	環境省 RL	大阪府 RL
1	タカ	タカ	<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	NT	NT
2			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	VU	CR+EN
3	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ		NT
4	スズメ	ヒタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ		VU
5		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		NT
合計	3目	4科	5種		2種	5種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

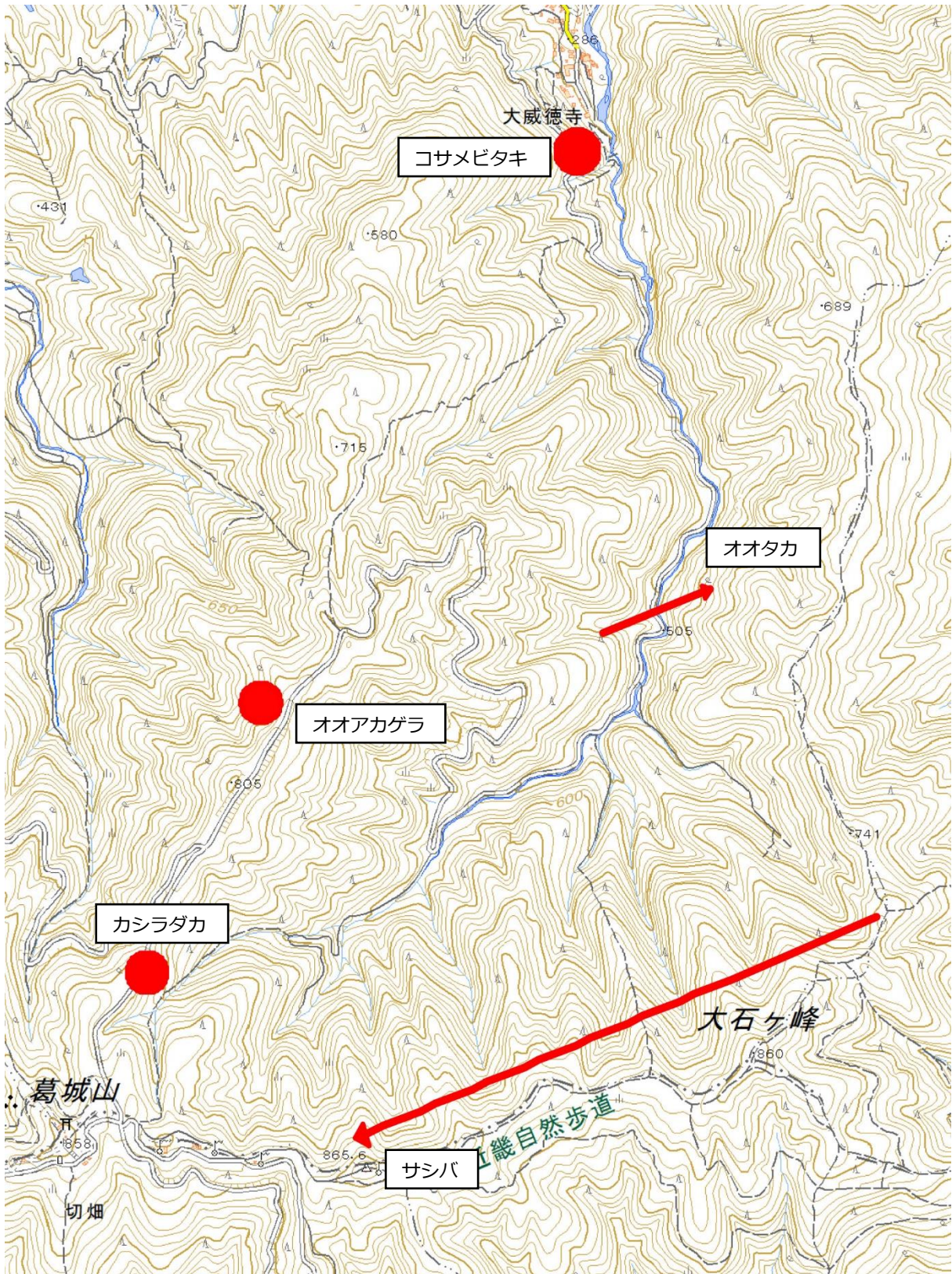


図 7-1 重要種確認位置図

④ 生息区分

現地調査で確認した鳥類の生息区分は、留鳥 22 種、夏鳥 2 種、冬鳥 9 種、旅鳥 1 種であり、留鳥 63%、夏鳥 6%、冬鳥 26%、旅鳥 3%と、一年を通してみられる種が半分を占める割合を示した（表 7-2、図 7-2）。なお、生息区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」（2017 年 3 月 31 日、日本野鳥の会大阪支部）に従った。

なお、旅鳥（一部夏鳥）とされているコサメビタキについては、旅鳥として分類した。また、秋冬の調査で夏鳥が確認されているが、それはサシバ、オオルリの 2 種であり、秋季調査において確認された渡り途中の個体である。

生息区分	確認種数	割合
留鳥	22 種	63%
夏鳥	2 種	6%
冬鳥	9 種	26%
旅鳥	1 種	3%
外来種	1 種	3%

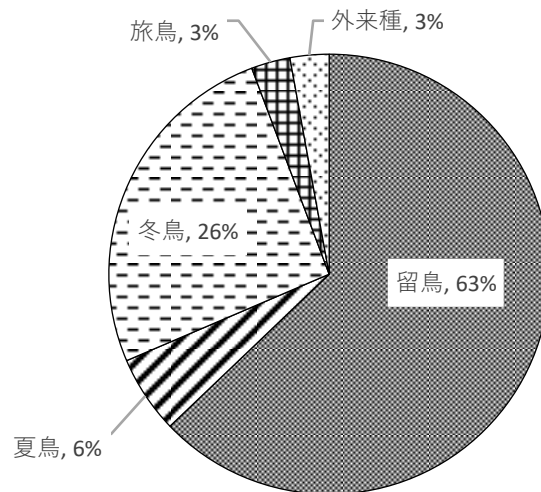


図 7-2 現地調査 生息区分の内訳

⑤ 密度

現地調査で確認された種の生息密度についてまとめたものを表 7-5 に示す。

1ha あたりの個体数は、ルートの総面積（距離×幅 50m）で除して算出した。ルートの総面積は 13ha である。

1ha あたり 1 個体以上の個体数となった種は、秋季では、サシバ、カケス、ヒヨドリ、エナガ、メジロの 5 種、冬季はヒヨドリ、エナガ、メジロ、マヒワ、アオジの 5 種であった。なお、秋季に 1 個体以上確認されているサシバについては、渡りの個体であるため、生息密度はない。

表 7-5 個体数密度

(羽/1ha)

No.	目	科	学名	種名	秋	冬
1	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	0.15	
2	タカ	タカ	<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ		0.08
3			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	1.46	
4	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	0.31	0.46
5			<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ	0.08	
6			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	0.08	
7	スズメ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	0.08	
8		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	1.31	0.31
9			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	0.08	
10			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	0.38	0.46
11		クイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	クイタダキ		0.08
12		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	0.15	0.31
13			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	0.54	0.23
14			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	0.46	0.77
15		チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	0.38	
16		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	4.69	2.08
17	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	0.38	0.46	
18	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	2.77	2.54	
19	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	1.08	3.08	
20	ミンサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミンサザイ		0.15	
21	ヒタキ	<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ		0.15	
22		<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ		0.31	
23		<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ		0.08	
24		<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ	0.08		
25		<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	0.08		
26		<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	0.15		
27	セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ		0.08	
28		<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ		0.08	
29		<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	0.08		
30	アトリ	<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ		1.15	
31		<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ		0.08	
32	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ		0.08	
33		<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		0.38	
34		<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ		1.00	
35		<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ		0.08	

2) 哺乳類

① 確認種

現地調査の結果、3目4科5種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表 7-6 に示す。学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定2版」(東海大学出版会、2008)に従った。

表 7-6 現地調査 哺乳類確認種

No.	目	科	学名	種名	秋季	冬季
1	食肉目	イタチ	<i>Martes melampus</i>	テン		○
2	偶蹄目	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ	○	
3	齧歯目	リス	<i>Sciurus lis</i>	ニホンリス	○	
4			<i>Petaurista leucogenys</i>	ムササビ		○
5		ネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	アカネズミ	○	
合計	3目	4科	5種		3種	2種

② 重要種

現地調査で確認された哺乳類のうち、重要種の該当する種は、大阪府レッドリストのムササビ1種のみであった。

表 7-7 現地調査 確認された重要種

No.	目	科	学名	種名	大阪府RDB
1	齧歯目	リス	<i>Petaurista leucogenys</i>	ムササビ	NT
合計	1目	1科	1種		1種

NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

3)

7-2 文献調査結果

表 5-1 で示したそれぞれの文献の記載概況を表 7-8 に示す。

表 7-8 文献概要

文献 No.	文献概要
文献 1	2002 年 4 月～2016 年 3 月までの大阪支部報、むくどり通信に記載された記録から、「大阪府鳥類目録 2016 地域別鳥類リスト」に記載された種。

① 確認種

文献調査の結果、14 目 32 科 74 種の鳥類を確認した。確認された種を表 7-9 に示す。

分類は「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（2012 年，日本鳥学会）に従った。

表 7-9(1) 文献調査 鳥類確認種

No.	目	科	学名	種名	資料1	区分
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ	○	留鳥
2	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	留鳥
3			<i>Treeron sieboldii</i>	アオバト	○	留鳥
4	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ	○	留鳥
5	ペリカン	サギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	ゴイサギ	○	留鳥
6			<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○	留鳥
7			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ	○	留鳥
8	ツル	クイナ	<i>Gallinula chloropus</i>	バン	○	留鳥
9	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○	夏鳥
10			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○	夏鳥
11			<i>Cuculus canorus</i>	カッコウ	○	夏鳥
12	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ	○	夏鳥
13	チドリ	シギ	<i>Scolopax rusticola</i>	ヤマシギ	○	冬鳥
14			<i>Gallinago solitaria</i>	アオシギ	○	冬鳥
15			<i>Tringa ochropus</i>	クサシギ	○	冬鳥
16	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ	○	夏鳥
17			<i>Milvus migrans</i>	トビ	○	留鳥
18			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ	○	冬鳥
19			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ	○	冬鳥
20			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	○	留鳥
21	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ	○	留鳥
22			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク	○	夏鳥
23	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Halcyon coromanda</i>	アカショウビン	○	旅鳥
24			<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○	留鳥
25			<i>Megaceryle lugubris</i>	ヤマセミ	○	留鳥
26	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	留鳥
27			<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ	○	留鳥
28			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ	○	冬鳥
29			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○	留鳥
30	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	○	留鳥
31	スズメ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○	留鳥
32		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	留鳥
33			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○	留鳥
34			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	留鳥
35		シジュウカラ	<i>Poecile montanus</i>	コガラ	○	留鳥
36			<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	留鳥
37			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○	留鳥
38			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	留鳥
39		ツバメ	<i>Riparia riparia</i>	ショウドウツバメ	○	旅鳥
40			<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○	夏鳥
41			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ	○	夏鳥
42		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	留鳥
43		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	留鳥
44		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○	留鳥
45		ムシクイ	ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○	夏鳥
46		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○	留鳥
47		レンジャク	レンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	○	冬鳥
48		ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	○	留鳥
49		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	○	留鳥
50	カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	○	留鳥	

表 7-9(2) 文献調査 鳥類確認種

No.	目	科	学名	種名	資料1	区分
51	スズメ	ヒタキ	<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○	夏鳥
52			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ	○	冬鳥
53			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ	○	冬鳥
54			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ	○	冬鳥
55			<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ	○	冬鳥
56			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○	夏鳥
57			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○	夏鳥
58			イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ	○
59		スズメ	<i>Passer montanus</i>	スズメ	○	留鳥
60		セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○	留鳥
61			<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ	○	留鳥
62			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	○	留鳥
63		アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ	○	冬鳥
64			<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○	留鳥
65	<i>Carduelis spinus</i>		マヒワ	○	冬鳥	
66	<i>Uragus sibiricus</i>		ベニマシコ	○	冬鳥	
67	<i>Carpodacus roseus</i>		オオマシコ	○	冬鳥	
68	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>		ウソ	○	冬鳥	
69	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>		シメ	○	冬鳥	
70	<i>Eophona personata</i>		イカル	○	留鳥	
71	ホオジロ		<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○	留鳥
72			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ	○	冬鳥
73		<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ	○	冬鳥	
74		<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ	○	冬鳥	
合計	14目	32科	74種		74種	—

② 重要種

文献調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は9目12科16種であった。確認された重要種を表7-10に示す。

今回の調査で、種の保存法記載種が2種、環境省レッドリスト記載種が5種、大阪府レッドリスト記載種が14種確認された。レッドリスト記載種16種の内13種が山野の鳥である。

表 7-10 文献調査 確認された重要種

No.	目	科	学名	種名	環境省 R L	大阪府 R L	種の保存法
1	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ		NT	
2	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ	NT	VU	
3	チドリ	シギ	<i>Tringa ochropus</i>	クサシギ		NT	
4	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ	NT	CR+EN	
5			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ	NT		
6			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ		NT	
7			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	EN	CR+EN	○
8	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ		NT	
9			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク		VU	
10	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	ヤマセミ		NT	
11	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ		NT	
12	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	VU		○
13	スズメ	ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ		NT	
14		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ		NT	
15		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス		NT	
16		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		NT	
合計	9目	12科	16種		5種	14種	2種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

③ 生息区分

文献調査で確認した鳥類の生息区分は、留鳥 39 種、夏鳥 12 種、冬鳥 21 種、旅鳥 2 種であり、留鳥 53%、夏鳥 16%、冬鳥 28%、旅鳥 3%と、現地調査の結果と同様に、一年を通してみられる種が一番高い割合を示した（表 7-9、図 7-3）。なお、生息区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」（2017 年 3 月 31 日、（財）日本野鳥の会大阪支部）に従った。

生息区分	確認種数	割合
留鳥	39 種	53%
夏鳥	12 種	16%
冬鳥	21 種	28%
旅鳥	2 種	3%

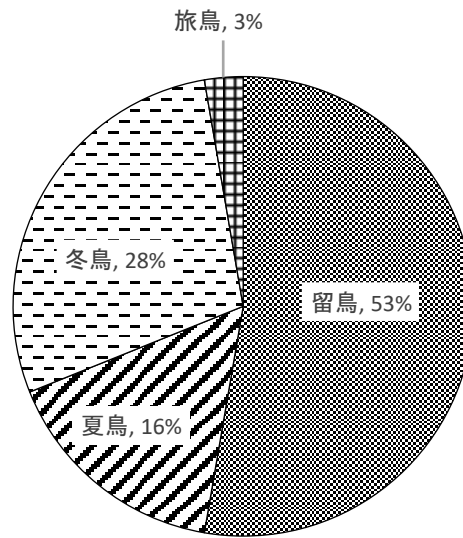


図 7-3 文献調査 生息区分の内訳

8. まとめ

1. 現地調査と文献調査により、鳥類が 14 目 34 科 80 種（うち重要種 19 種）、哺乳類が 2 目 3 科 3 種確認された（鳥類表 8-1、表 8-2 参照）。
2. 現地調査の結果、4 目 17 科 35 種の鳥類が確認された。各調査回の確認種数と個体数の合計は、秋季が 21 種 192 個体、冬季が 24 種 188 個体であった。また、確認した鳥類の生息区分の内訳は、留鳥 63%、夏鳥 6%、冬鳥 26%、旅鳥 3%と、留鳥の割合が半数を占め、次いで冬鳥の割合が高い結果となった。現地調査で確認された個体数密度において、1ha あたり 1 個体以上の個体数となったのは渡り途中と思われるサシバを除けば、カケス、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、マヒワ、アオジの 6 種であった。
3. 文献調査の結果、14 目 32 科 74 種の鳥類が確認された。これら確認種の生息区分の内訳は、留鳥 53%、夏鳥 16%、冬鳥 28%、旅鳥 3%であり、現地調査の結果と同様に、留鳥が一番高く、次いで冬鳥が高い割合を示した。
4. 現地調査における重要種は 5 種確認され、環境省レッドリスト記載種 2 種、大阪府レッドリスト記載種 5 種が確認され、すべての種が山野の鳥であった。また、文献調査における重要種は、種の保存法記載種が 2 種、環境省レッドリスト記載種は 5 種、大阪府レッドリスト記載種は 14 種で、山野の鳥が 75%の割合で確認された。現地調査と文献調査を合わせて計 19 種の重要種が確認された。
5. 哺乳類については、現地調査によって 3 目 4 科 5 種の生息が確認され、そのうち重要種であるムササビが確認された。
6. このように、葛城牛滝鳥獣保護区は山野に生息する鳥類の多く、特に一年中生息場所を変えない留鳥や冬期に滞在する冬鳥が多数生息することが確認された。このことからこれらの鳥類の生息に適した環境であると考えられた。確認された鳥類の中には法によって保護されている種ハヤブサとクマタカが含まれている。クマタカは現地調査では確認されなかったが、文献調査での出現や現地撮影された同種の写真が多くあることから、該当地域を主たる活動地域として生息している個体またはペアが生息しているものと考えられた。クマタカは種の保存法指定種であり、環境省レッドリストでは絶滅危惧 I 類に指定されている。このように葛城牛滝鳥獣保護区には全国的に見ても希少な種であるとともに生態系の頂点に位置するクマタカが生息しており、さらにオオタカ、ハヤブサ、オオアカゲラなどの重要種が多く生息していることが確認された。このことから当該地域はクマタカを頂点とする多様な生物の生息にとって良好な環境が保たれていると言えよう。今後も当該地域を保護区として更新を続け、野生鳥獣の生息地としてさらにより良い環境を整えることが重要であると考えられる。

表 8-1(1) 現地調査・文献調査の確認種

No.	目	科	学名	種名	現地調査		文献調査
					秋季	冬季	
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ			○
2	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○		○
3			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト			○
4	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ			○
5	ペリカン	サギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	ゴイサギ			○
6			<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ			○
7			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ			○
8	ツル	クイナ	<i>Gallinula chloropus</i>	バン			○
9	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス			○
10			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			○
11			<i>Cuculus canorus</i>	カッコウ			○
12	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ			○
13	チドリ	シギ	<i>Scolopax rusticola</i>	ヤマシギ			○
14			<i>Gallinago solitaria</i>	アオシギ			○
15			<i>Tringa ochropus</i>	クサシギ			○
16	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			○
17			<i>Milvus migrans</i>	トビ			○
18			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ			○
19			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ		○	
20			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	○		
21			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			○
22		<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ			○	
23	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			○
24			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			○
25	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Halcyon coromanda</i>	アカショウビン			○
26			<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ			○
27			<i>Megaceryle lugubris</i>	ヤマセミ			○
28	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	○
29			<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ	○		○
30			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ			○
31			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○		○
32	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ			○
33	スズメ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○		○
34		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	○	○
35			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○		○
36	<i>Corvus macrorhynchos</i>		ハシブトガラス	○	○	○	
37		キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	キクイタダキ		○	
38	シジュウカラ		<i>Poecile montanus</i>	コガラ			○
39			<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	○
40			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○	○	○
41			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○
42	チメドリ		<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○		
43	ツバメ		<i>Riparia riparia</i>	ショウドウツバメ			○
44			<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ			○
45			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			○
46	ヒヨドリ		<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	○
47	ウグイス		<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○
48	エナガ		<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	○
49	ムシクイ		<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			○
50	メジロ		<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	○

表 8-1(2) 現地調査・文献調査の確認種

No.	目	科	学名	種名	現地調査		文献調査
					秋季	冬季	
51	スズメ	レンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	ヒレンジャク			○
52		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ		○	○
53		ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ			○
54		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			○
55		ヒタキ	<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ			○
56			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ		○	○
57			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ			○
58			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ		○	○
59			<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ		○	○
60			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ	○		
61			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		
62			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ			○
63		<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○		○	
64		イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ			○
65	スズメ	<i>Passer montanus</i>	スズメ			○	
66	セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ		○	○	
67		<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ		○	○	
68		<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	○		○	
69	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ			○	
70		<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ			○	
71		<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ		○	○	
72		<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ			○	
73		<i>Carpodacus roseus</i>	オオマシコ			○	
74		<i>Pyrhula pyrrhula</i>	ウソ		○	○	
75		<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ			○	
76		<i>Eophona personata</i>	イカル			○	
77		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ		○	○
78			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		○	○
79			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ		○	○
80	<i>Emberiza variabilis</i>		クロジ		○	○	
合計	14目	34科	80種	21種	24種	74種	

表 8-2 現地調査・文献調査の重要種

No.	目	科	学名	種名	現地調査		文献調査	環境省 R L	大阪府 R L	種の保存法
					秋季	冬季				
1	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			○		NT	
2	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ			○	NT	VU	
3	チドリ	シギ	<i>Tringa ochropus</i>	クサシギ			○		NT	
4	タカ	タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			○	NT	CR + EN	
5			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ			○	NT		
6			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ		○		NT	NT	
7			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	○			VU	CR + EN	
8			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			○		NT	
9			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ			○	EN	CR + EN	○
10			フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			○	
11	<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク					○		VU	
12	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	ヤマセミ			○		NT	
13	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ	○		○		NT	
14	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ			○	VU		○
15	スズメ	ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			○		NT	
16		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			○		NT	
17		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			○		NT	
18		ヒタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○				VU	
19		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		○	○		NT	
合計	9目	13科	19種		3種	2種	16種	7種	17種	2種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

9. 参考文献

1. 「環境省レッドリスト 2017」(2017年, 環境省)
2. 「大阪府レッドリスト 2014」(2014年, 大阪府)
3. 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 国内希少野生動植物種」(環境省)
4. 「大阪府鳥類目録 2016」(2017年3月31日, 日本野鳥の会大阪支部)
5. 「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)
6. 「平成28年度岸和田市環境白書」(岸和田市, 2018年3月12日掲載)
7. 「大阪の生物多様性ホットスポット-多様な生き物たちに会える場所-」(大阪府環境農林水産部みどり推進室みどり企画課, 2016年1月)